

船舶事故等調査報告書

平成22年5月27日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009門第126号
事故等種類	乗組員負傷
発生日時	平成21年8月16日（日） 16時40分ごろ
発生場所	福岡県福岡市中央区福浜町鶴来島から北東500m付近 （概位 北緯33°36.6′ 東経130°22.3′）
事故等調査の経過	平成21年8月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	遊漁船 ^{たか} 孝丸、4.9トン
船舶番号、船舶所有者等	292-29753福岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定
死傷者等	船長が両手及び顔面等に熱傷
損傷	なし
事故等の経過	<p>本船は、船長が乗り組み、釣客6人を乗せ、遊漁目的で、平成21年8月16日16時30分ごろ、福岡市中央区博多漁港を発し、福岡県宗像市沖ノ島付近海域に向け、鶴来島の北東沖を航行中、同日16時40分ごろ、主機の冷却水水位低下警報が作動した。</p> <p>船長は、主機の冷却清水（以下「冷却清水」という。）を補給するため、主機を停止して機関室へ赴き、冷却清水タンクの圧力蓋を開放したところ、噴出した蒸気で両手及び顔等に熱傷を負った。</p> <p>本船は、船長が熱傷を負ったことから、釣客が海上保安部へ連絡し、巡視船の搭載艇でえい航されて帰港したのち、船長が救急車で病院へ搬送された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北北西、風速 約6m/s、視界 良好</p> <p>海象：うねり なし</p>
その他の事項	<p>船長は、出港して間もないため、冷却清水タンクの圧力蓋を開放しても大丈夫だろうと思い、同蓋を開放して補給を行おうとした。</p> <p>船長は、冷却清水タンクの圧力蓋を開放する際、熱かったのでウエスを被せて同蓋を開放した。</p> <p>船長は、冷却清水が、余り減らなく、減少すれば警報が鳴ることから、日ごろから出港前の点検で冷却清水の量を確認していなかった。</p> <p>主機の機関取扱説明書には、主機が温態の下、冷却清水タンクの圧力蓋を開放してはならないと注意書されていた。</p> <p>船長は、冷却清水の点検を、半年に1回行っている潤滑油の交換作業に合わせて行っており、約3ℓの清水を補給していた。最近では4月ごろ冷却清水の点検を行っていた。</p> <p>本船は、帰港後、本件整備業者が主機の冷却水システムを点検したところ、冷却清水システムに漏洩は認められなかった。</p> <p>主機の冷却水温度上昇警報は作動していなかった。</p>

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本事故は、主機が温態の下、船長が冷却清水タンクの圧力蓋を開放したため、高温の蒸気が噴出したことにより発生したものと考えられる。 主機の冷却水水位低下警報は、冷却清水が自然蒸発して減少したため作動したものと考えられる。 船長が、出港前の点検で、冷却清水の量を確認していれば、本事故は防止できたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が鵜来島の北東沖を航行中、主機が温態の下、船長が冷却清水タンクの圧力蓋を開放したため、高温の蒸気が噴出したことにより発生したものと考えられる。	